

■ 養成人材像・3つのポリシー・学修成果

■ 看護学部看護学科

<p>養成人材像</p>	<p>人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる看護実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる看護職者を養成する。</p>
<p>DP (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>看護学部看護学科に4年以上在学し、次の能力を身につけ、卒業要件単位数を満たした者に、「学士（看護学）」の学位を授与する。</p> <p>①人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力</p> <p>②多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力</p> <p>③科学的根拠・理論的知識を身につけ、安全かつ計画的に看護を実践する力</p> <p>④学修課題や目標に主体的に取り組み、看護学を学術的に探究できる力</p> <p>⑤地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、看護問題を適切に解決できる力</p>
<p>学修成果</p>	<p>学修成果とは、上記DP（ディプロマ・ポリシー）に示す①～⑤の能力を身につけることであり、それぞれ順番に【人間基盤力】【連携協働力】【専門実践力】【学術探究力】【課題解決力】の5つの力で表す。</p>
<p>CP (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>カリキュラムは、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの科目区分とし、基礎的内容から発展的・専門的内容へと段階的にかつ主体的に学修を進め、また体系的に知識や技術を身につけられるよう編成する。</p> <p>授業形式は、概念や理論を理解し、正確な知識と論理的な思考力の修得を目指す「講義」、学んだ知識を基に技術や態度を身につけ、分析的・探索的な洞察力の修得を目指す「演習」、学内外における様々な体験を通して、実践能力の修得を目指す「実習・実技」にて構成し、「講義」「演習」「実習・実技」の相補的な学びにより、有機的な学修効果が得られるよう、科目を配置する。また、グループワークやディスカッション等の授業方法を適宜取り入れ、学生の能動的な学びを促す。</p> <p>すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポート試験、実技試験等により、厳格な成績判定を実施する。</p> <p>①教養科目</p> <p>「教養科目」は、「言語・情報系」「人文科学系」「社会科学系」「自然科学系」の4区分にて科目を配置する。社会の一員として求められる素養を育み、専門分野の学びや学術的な探究の土台となる、科学的で柔軟な思考力を培う。また、多様な他者を理解し、人間を全人的に捉える視点と、物事の本質に迫ろうとする姿勢を養う。（ディプロマ・ポリシー①②④と強く関連する。）</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">C P (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>②専門基礎科目</p> <p>「専門基礎科目」は、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」の3区分にて、看護学を学ぶ上で、専門領域の基礎となる科目を配置する。</p> <p>科学的な根拠に基づいた判断による看護実践のために、人間の身体とその機能、健康と疾病に関する基礎知識を身につけるとともに、地域の課題や状況を正しく捉えることができる力を養う。また、保健・医療・福祉に関する基本概念や関係制度、チーム医療の概念とその重要性を理解する。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー②③⑤と強く関連する。)</p> <p>③専門科目</p> <p>「専門科目」は、「基礎看護学」「地域・在宅看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「看護の基盤と応用」「看護の統合と実践」「臨地実習」「公衆衛生看護学」の11区分にて、看護の基礎から応用・実践まで、各領域に関する科目及び各領域に共通する内容への理解を深める科目と、学んだ知識・技術・態度を基盤に、看護実践能力を修得し、対象者とその家族の支援、チームの一員としての役割を学ぶ科目を配置する。</p> <p>根拠に基づいた正確な知識・確かな技術をもって看護を実践できる力を育成しながら、患者中心の看護実践のために、あらゆる背景を持つ対象者を多面的に理解し、倫理的に意思決定できる基盤を固める。多職種連携における看護の役割と、チームの一員としての役割遂行への理解を深め、協調性や自主性を伸長する。</p> <p>また、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、探究心を持って粘り強く学修し研鑽を積むことができる力と、物事を注意深く考察できる視点を養う。地域や対象者の課題やニーズに客観的に向き合い、適切なアプローチを検討、解決までのプロセスを描くことができる力を育む。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー①②③④⑤と強く関連する。)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">A P (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>①大学入学後に必要な基礎学力を有している。</p> <p>②他者の考えや立場を理解しながら自己の考えを的確に表現し、良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③基本的な学修習慣が身につけており、主体的に知識や技術を学び続ける意欲がある。</p> <p>④人間の生命や尊厳を大切にし、看護職者として地域社会に貢献しようとする意志を持っている。</p>

I 仙台青葉学院大学について

■ リハビリテーション学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻

<p>養成人材像</p>	<p>人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、リハビリテーション専門職としての深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる理学療法士及び作業療法士を養成する。</p>
<p>DP (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>リハビリテーション学部リハビリテーション学科に4年以上在学し、次の能力を身につけ、卒業要件単位数を満たした者に、「学士（理学療法学）」の学位を授与する。</p> <p>①人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力</p> <p>②多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力</p> <p>③理学療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態に対して科学的根拠に基づく理学療法を実践できる力</p> <p>④学修課題や目標に主体的に取り組み、理学療法学を学術的に探究できる力</p> <p>⑤地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力</p>
<p>学修成果</p>	<p>学修成果とは、上記DP（ディプロマ・ポリシー）に示す①～⑤の能力を身につけることであり、それぞれ順番に【人間基盤力】【連携協働力】【専門実践力】【学術探究力】【課題解決力】の5つの力で表す。</p>
<p>CP (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>カリキュラムは、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの科目区分とし、基礎的内容から発展的・専門的内容へと段階的にかつ主体的に学修を進め、また体系的に知識や技術を身につけられるよう編成する。</p> <p>授業形式は、概念や理論を理解し、正確な知識と論理的な思考力の修得を目指す「講義」、学んだ知識を基に技術や態度を身につけ、分析的・探索的な洞察力の修得を目指す「演習」、学内外における様々な体験を通して、実践能力の修得を目指す「実習・実技」にて構成し、「講義」「演習」「実習・実技」の相補的な学びにより、有機的な学修効果が得られるよう、科目を配置する。また、グループワークやディスカッション等の授業方法を適宜取り入れ、学生の能動的な学びを促す。</p> <p>すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポート試験、実技試験等により、厳格な成績判定を実施する。</p> <p>①教養科目</p> <p>「教養科目」は、「言語・情報系」「人文科学系」「社会科学系」「自然科学系」の4区分にて科目を配置する。</p> <p>社会の一員として求められる素養を育み、専門分野の学びや学術的な探究の土台となる、科学的で柔軟な思考力を培う。また、多様な他者を理解し、人間を全人的に捉える視点と、物事の本質に迫ろうとする姿勢を養う。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー①②④と強く関連する。)</p>

<p>CP (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>②専門基礎科目</p> <p>「専門基礎科目」は、「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の3区分にて、理学療法学を学ぶ上で、専門領域の基礎となる科目を配置する。</p> <p>科学的な根拠に基づいた判断によるリハビリテーションの実践のために、人間の身体とその機能、健康と疾病に関する基礎知識を身につけるとともに、地域の課題や状況を正しく捉えることができる力を養う。また、保健・医療・福祉に関する基本概念や関係制度、チーム医療の概念とその重要性を理解する。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー②③⑤と強く関連する。)</p> <p>③専門科目</p> <p>「専門科目」は、「基礎理学療法学」「理学療法管理学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「臨床実習」「地域理学療法学」「特別演習」の7区分にて、理学療法の基礎から応用・実践まで、各領域に関する科目、リハビリテーション実践能力の定着を目指す科目、理学療法士として必要となる臨床的観察力や分析力、また対象者との関係性を構築する力を身につけ、チームの一員としての責任と自覚を醸成する科目を配置する。</p> <p>根拠に基づいた正確な知識・確かな技術をもって理学療法を実践できる力を育成しながら、患者中心の理学療法実践のために、あらゆる背景を持つ対象者と適切にコミュニケーションを取ることができる力と、理学療法士としての職業倫理を涵養する。多職種連携における理学療法の役割と、チームの一員としての役割遂行への理解を深め、協調性や自主性を伸長する。</p> <p>また、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、理学療法研究の基礎知識、能動的に粘り強く学修し研鑽を積むことができる力、物事を注意深く考察できる視点を養う。地域や対象者の課題やニーズに客観的に向き合い、適切なアプローチを検討、解決までのプロセスを描くことができる力を育む。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー①②③④⑤と強く関連する。)</p>
<p>AP (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>①大学入学後に必要な基礎学力を有している。</p> <p>②他者の考えや立場を理解しながら自己の考えを的確に表現し、良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③基本的な学修習慣が身につけており、主体的に知識や技術を学び続ける意欲がある。</p> <p>④人間の生命や尊厳を大切にし、理学療法士として地域社会に貢献しようとする意志を持っている。</p>

■ リハビリテーション学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻

<p>養成人材像</p>	<p>人間愛を根底とする豊かな人間性と生命の尊厳に基づく高い倫理観を備え、リハビリテーション専門職としての深い専門的な知識、技術、分析力、判断力からなる実践能力を身につけ、生涯にわたり学び続けながら地域の保健医療福祉の向上に貢献できる理学療法士及び作業療法士を養成する。</p>
<p>DP (ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>リハビリテーション学部リハビリテーション学科に4年以上在学し、次の能力を身につけ、卒業要件単位数を満たした者に、「学士（作業療法学）」の学位を授与する。</p> <p>①人間愛の精神を根底とする豊かな教養と生命の尊厳に基づく高い倫理観を身につけ、物事を多角的に理解し思考する力</p> <p>②多職種連携の重要性を理解し、保健・医療・福祉チームの一員として他者と連携、協働する力</p> <p>③作業療法に関する幅広い知識・技術を身につけ、対象者の多様な病態や作業ニーズを捉え作業療法を実践できる力</p> <p>④学修課題や目標に主体的に取り組み、作業療法学を学術的に探究できる力</p> <p>⑤地域の課題及び対象者の状況やニーズを正しく捉え、リハビリテーションに関する問題を適切に解決できる力</p>
<p>学修成果</p>	<p>学修成果とは、上記DP（ディプロマ・ポリシー）に示す①～⑤の能力を身につけることであり、それぞれ順番に【人間基盤力】【連携協働力】【専門実践力】【学術探究力】【課題解決力】の5つの力で表す。</p>
<p>CP (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>カリキュラムは、「教養科目」「専門基礎科目」「専門科目」の3つの科目区分とし、基礎的内容から発展的・専門的内容へと段階的にかつ主体的に学修を進め、また体系的に知識や技術を身につけられるよう編成する。</p> <p>授業形式は、概念や理論を理解し、正確な知識と論理的な思考力の修得を目指す「講義」、学んだ知識を基に技術や態度を身につけ、分析的・探索的な洞察力の修得を目指す「演習」、学内外における様々な体験を通して、実践能力の修得を目指す「実習・実技」にて構成し、「講義」「演習」「実習・実技」の相補的な学びにより、有機的な学修効果が得られるよう、科目を配置する。また、グループワークやディスカッション等の授業方法を適宜取り入れ、学生の能動的な学びを促す。</p> <p>すべての授業において、客観的な評価基準に基づき、筆記試験、レポート試験、実技試験等により、厳格な成績判定を実施する。</p> <p>①教養科目</p> <p>「教養科目」は、「言語・情報系」「人文科学系」「社会科学系」「自然科学系」の4区分にて科目を配置する。</p> <p>社会の一員として求められる素養を育み、専門分野の学びや学術的な探究の土台となる、科学的で柔軟な思考力を培う。また、多様な他者を理解し、人間を全人的に捉える視点と、物事の本質に迫ろうとする姿勢を養う。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー①②④と強く関連する。)</p>

<p>CP (カリキュラム・ポリシー)</p>	<p>②専門基礎科目</p> <p>「専門基礎科目」は、「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の3区分にて、作業療法学を学ぶ上で、専門領域の基礎となる科目を配置する。</p> <p>科学的な根拠に基づいた判断によるリハビリテーションの実践のために、人間の身体とその機能、健康と疾病に関する基礎知識を身につけるとともに、地域の課題や状況を正しく捉えることができる力を養う。また、保健・医療・福祉に関する基本概念や関係制度、チーム医療の概念とその重要性を理解する。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー②③⑤と強く関連する。)</p> <p>③専門科目</p> <p>「専門科目」は、「基礎作業療法学」「作業療法管理学」「作業療法評価学」「作業療法治療学」「臨床実習」「地域作業療法学」「特別演習」の7区分にて、作業療法の基礎から応用・実践まで、各領域に関する科目、リハビリテーション実践能力の定着を目指す科目、作業療法士として必要となる倫理観や基本的態度、評価・介入における臨床技能や臨床的観察力を身につけ、チームの一員としての責任と自覚を醸成する科目を配置する。</p> <p>根拠に基づいた正確な知識・確かな技術をもって作業療法を実践できる力を育成しながら、患者中心の作業療法実践のために、あらゆる背景を持つ対象者と適切にコミュニケーションを取ることができる力と、作業療法士としての職業倫理を涵養する。多職種連携における作業療法の役割と、チームの一員としての役割遂行への理解を深め、協調性や自主性を伸長する。</p> <p>また、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、作業療法研究の基礎知識、能動的に粘り強く学修し研鑽を積むことができる力、物事を注意深く考察できる視点を養う。地域や対象者の課題やニーズに客観的に向き合い、適切なアプローチを検討、解決までのプロセスを描くことができる力を育む。</p> <p>(ディプロマ・ポリシー①②③④⑤と強く関連する。)</p>
<p>AP (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>①大学入学後に必要な基礎学力を有している。</p> <p>②他者の考えや立場を理解しながら自己の考えを的確に表現し、良好な人間関係を築くことができる。</p> <p>③基本的な学修習慣が身につけており、主体的に知識や技術を学び続ける意欲がある。</p> <p>④人間の生命や尊厳を大切にし、作業療法士として地域社会に貢献しようとする意志を持っている。</p>